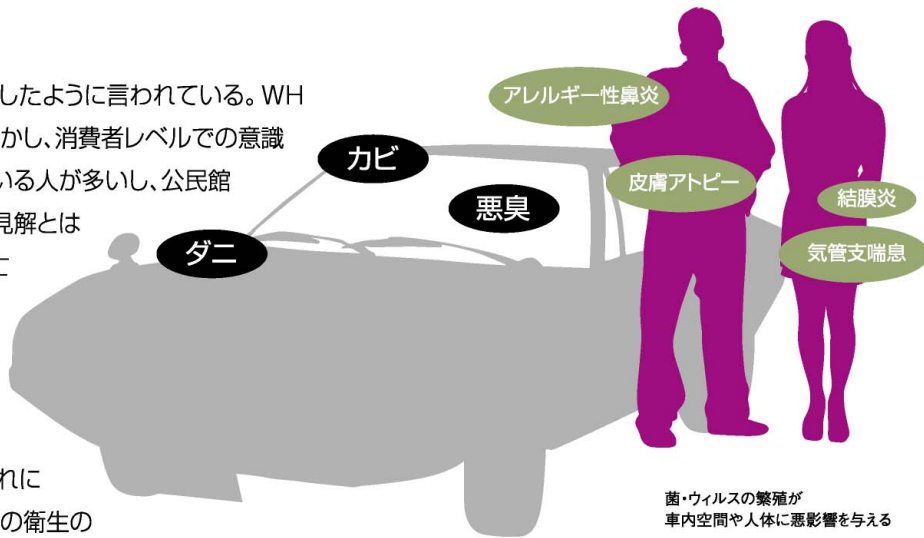


気になる菌やウイルスから車内空間を守る

～除菌・抗菌～

私たちが心胆寒からしめた豚インフルエンザはパンデミック(爆発的感染)を回避したように言われている。WHO(世界保健機関)をはじめ、日本政府も警戒態勢を若干緩めたように感じられる。しかし、消費者レベルでの意識は必ずしもそうではない。たとえば東京の通勤電車では相変わらずマスクをしている人が多いし、公民館や図書館や博物館などは、入り口にポンプ式の殺菌剤が置いてある。どうも、公式見解とは裏腹に、消費者レベルでの豚インフルエンザ警戒態勢は強く意識されている。死亡率が予想よりも低い弱毒型というのが警戒を解く理由かもしれないが、感染力は強いという見解は消えていない。ウイルスは、感染しながら新しいウイルスを生産するたびに遺伝子が変化する可能性を強く持っている。つまり、感染者が増えれば増えるだけDNAが変異した強力な新型インフルエンザになるかもしれないのだ。私たちが提案する「クルマをキレイに」は、車を美しく維持するだけでなく、それに伴って安全と安心をも提供する、ということも含めたい。この危機感を契機に、車内の衛生のため、除菌・抗菌に目を向けてはいかがでしょうか。



菌・ウイルスの繁殖が車内空間や人体に悪影響を与える

◎テストデータが示す当社の除菌剤(AC-1)の性能◎

AC-1の除菌効果		(財団法人 日本食品分析センター調べ)	
細菌の種類	主な存在場所	施工前(生菌数)	施工30分後
大腸菌(O-157含む)	食品全般、床面	4,300,000	<10(検出限界値以下)
黄色ぶどう球菌	傷口、化膿部分	4,500,000	<10(検出限界値以下)
サルモネラ菌	肉・乳製品	3,400,000	<10(検出限界値以下)

◎「AC-1」「L-2」のW効果と「快洗内窓クリーナー」でパーフェクトに除菌・抗菌◎

除菌・抗菌処理の基本作業は4ステップ

- 1 除菌剤(AC-1)** AC-1を車内全体にスプレー
- 2 乾燥** エアコンを入れ乾燥を早める
- 3 抗菌剤(L-2)** L-2を車内全体にスプレー
- 4 快洗内窓クリーナー** 窓をキレイにしながら同時に除菌

子さんが乗る車両でも、安心して施工できるとい理由がここにある。

抗菌剤の主成分は銀イオンである。銀の殺菌力は昔から知られていて各分野で利用されてきたのであるが、意外なことにその殺菌のメカニズムはまだ解明されていないのだ。真に以って不思議である。

さらに人体に害がないということは歯科医療で銀歯の素材として使われていることでも判らるだろう(無機銀に限る)。

このように、まず除菌し、しかる後に抗菌処理をする、という作業手順によって、知らず知らず細菌やダニの棲家になってしまっていた車内が一気に清潔になる。

なお、副次的な効果として、カビが原因であるエアコンの異臭が消えるのは言うまでもない。

窓ガラスの内側の汚れを落とし、除菌もする「快洗内窓クリーナー」

さらにもう一つの除菌力を挙げておこう。車

内清掃で使う快洗内窓クリーナーがそれだ。

これは、皮脂や外気中の油脂、あるいはタバコのヤニなどに埃などが付着して汚れの幕を作ってしまった窓ガラスの内側をすっぱりとキレイにする材料である。その汚れ取り効果は眼を瞠るほどのものだが、そればかりではなく、このクリーナー自体が除菌作用を持っているのだ。

快洗内窓クリーナーは、エタノールにいくつかの成分を混合したものだ。このエタノールは、100%(無水エタノール)だと殺菌効果は弱いのに、いくらか希釈して80%程度に調整すると、非常に強力な殺菌能力を発揮する。

これは、その程度の濃度のときに水分とエタノールの分子組成が1対1となって水に馴染まない物質になり、そのことで細胞膜が破れて細菌が死滅する、というメカニズムによるもの。車内清掃でも、実は除菌作用をしているわけだ。

自動車の車内でも菌・ウイルスは繁殖する

豚インフルエンザA型(H1N1)という、突然の危機によって関心を払わざるを得なくなった変異ウイルス。

感染者が出た地域はもちろんのこと、今後感染の広がりが予想される首都圏で早くもマスクが売り切れるなど、軽いパニック状態を見せた。

思い返してみると、2005年の鳥インフルエンザ騒動、2003年のSARS、もっと遡ればMRSAのように致死性の高い変異ウイルスや、O-157のような強い毒性を持つ大腸菌など、私たちの生活のなかで身近であると言えるほど、毒性細菌やウイルスが存在している。

そのような危険性の高いものに限らず、カビ(細菌の一種)や、ダニなどを媒介にしたリケッチア菌などは、前述のウイルスや毒性細菌よりもさらに身近な存在で、やはりそれなりに住空間の浄化には留意しなければならないということだろう。

細菌・ウイルスは、湿度・温度によって活性度が変化するのだから、やはり同様のものと考えることができる。

寒い時期でさえ、日差しがあれば暖かい車内である。湿度が高くなり日差しが強くなる梅雨から秋雨までは、とりわけこのうとうしい菌が繁殖する絶好の時期である。

まして暑い時期は肌を出しているわけで、細菌の栄養源である皮脂が彼らの繁殖を助けてしまうのだ。その挙句に、人間に害を与えるばかりでなく、副産物としてエアコンの異臭という不快な現象をも味わうことになる。

W効果で強力に除菌と抗菌をする除菌・抗菌処理

さて、除菌・抗菌処理は、SSやディーラーや修理工場などでメニューに加えているばかりでなく、カー用品店で除菌剤を購入し自分で処理することもあるだろう。オゾンやイオンなどの商品があり、それぞれ効果があるだろうが、メカニズムが明らかになっているものは少ないのが現状である。たとえ効果があるとしても、メカニズムくらいは知りたい。なにしろ私たちの身体に直接作用するものだから。

アイ・タック技研(株)の除菌・抗菌システムは、最大限メカニズムを明らかにし、除菌作用と抗菌作用のそれぞれに最も効果のある材料を組み合わせたシステムにしているという特徴がある。今回は、その除菌・抗菌システム(オールクリア)を元に、除菌・抗菌のメカニズムと効果をご案内しよう。除菌・抗菌処理は、強力だけれども人体に無害な除菌剤(AC-1)と、これも無害で強い抗菌剤(L-2)を順番に塗布することで、まず除菌し、除菌された室内に抗菌機能を定着させる、という仕組みになっている。

ちなみに、除菌というのは「ある物質または限られた空間から微生物を除去すること」(社団法人全国家庭電気製品公正取引協議会による定義)であり、微生物とはウイルスをも含んでいる。また、抗菌というのは「微生物の発生・生育・増殖を抑制することをいい、細菌を主に対象とする」(同)というわけだ。

除菌剤が細菌やウイルスを殺すメカニズムは、主成分である安定化次亜塩素酸水が、対象となる細菌の細胞膜を破碎し、同時に次亜塩素酸水そのものは化学反応によって水になってしまうため、人畜無害である、というわけ。小さなお

ゴールキーパーは、自陣ゴールにボールを入れないことが仕事。そのために、ボールをキャッチするキャッチング、拳で叩き返すパンチング、掌でボールの方向を変えるディフレクティング、身体のすぐ近くに来るグラウンダー(ゴロ)に身をかわせるクラブビング、など、難しい技術を習得する。雨の日の試合はボールが濡れているので、無理にキャッチしようとするとうまくフアンブルしてしまう。そんなとき、キーパーはパンチングを多用してリスクを小さくするのだ。相手フォワードがヘディングの強い選手だとしたら、味方ディフェンダーが競り合っている真ん中に飛び

込んでいき、ヘディングをされる前にボールをキャッチしてしまうことが当たり前の判断だ。屈強な選手たちが入り乱れる中を両手を挙げてジャンプする、そのとき首から下は無防備な状態なのだ。もし選手のひざやひじや肩が腹部に当たったら悶絶しかねない。しかしその状況でもボールを離せばゴールを決められてしまうわけで、まずはボールをしっかり腕と胸とで確保したまま倒れる、それからアイタタタ、と痛がるという、なかなかたいへんなポジションなのだ。カーンは、これらの技術のどれも一流だったばかりでなく、その技術の何を使えばもっ

とも確率高くゴールを守ることができるか、それをとっさに判断する能力、そして選択した手段を確実にこなす技術、そのどちらも優れていた。とりわけ、パンチングの技術は世界でも超一流と折り紙がつけられたものである。パンチングは、スリッピーな状況でリスクを低減すると同時に、混戦からボールを遠くに弾き出して味方の守備態勢を整える時間を作る戦術でもある。決して慌てない、冷静に次の展開を予想し、局面を打開するためのプレーを選ぶ。なるほど、カーンが一流の株式投資家でもあるというのはしっくり来る。そんな緊張した試合が終わり、神経が

高ぶっている彼を温かく迎え、気持ちを落ち着かせてくれるのは、鉄道模型だという。2002年のワールドカップで来日した際に、日本の新幹線の模型を買ったそうだ。500系らしい。彼の、世界的ゴールキーパーとしての張り詰めた毎日を癒したのが日本の鉄道模型だったとは、実に嬉しい話なのである。



オリバー・カーンの時代

その3

冷静な判断をし続ける脳、それを癒す鉄道模型、なんというコンビネーション!